

令和6年度 自己評価・学校関係者評価

学校法人藤原学園日本平幼稚園

学校法人藤原学園日本平幼稚園 学校関係者評価委員会

【教育理念】

自ら未来を切り開き、幸せに、しなやかに人生を歩むことが出来る人としての土台を育む

【教育目標】

「やさしい心・健やかな身体・豊かな想像力」のバランスのある成長・発達を促す。

【本年度の重点課題】

- 1 子どもが自ら選択し、主体的に行動できる教育活動・環境設定への取り組み
- 2 集団活動における、園児の個別の目標設定とその支援
- 3 教師の資質向上を目的とした主体的な園内研修

【各評価】

	自己評価		学校関係者評価	
計 保 画 育 性 の	B	日々の保育については、月案や週案を通して計画的に取り組んできた。子どもの様子に応じて、その都度計画を変更したりすることもあるが、その為にはある程度余裕を持った計画、また臨機応変に対応できる「余白」の必要性も感じている。来年度はそうしたことについても考えていきたい。	A	計画をきちんと立てて保育に臨んでいる様子が見受けられる。また行事等における教職員の協力体制もしっかりしており、保育だけでなく業務の面でも先を見越して職務を遂行する姿勢が見られる。
保 育 内 容	A	集団活動と個別活動、年齢や発達についても異なるが、そのバランスを大切に保育を行ってきた。また園の理念にもあるように、「自分で考える力」「子どもが選択する機会の確保」「子ども同士の育ち合い」等、すべての教職員が1つの指針を胸に保育を行うよう努めてきた。	A	日々の生活の中でも、行事でも、子ども達の成長を後押しするような配慮ができていていると感じる。また行事もたくさんあり、子どもたちも楽しみながら取り組むことができていていると感じられる。
園 対 児 応 への	A	基本的な姿勢として、「子どもの気持ちに寄り添う」ということを大切にしている。そうした心に寄り添う保育を行うことで、子どもたちの感情が育ち、安心して園生活を営むことができるからである。しかし危険なこと等、間違ったことには毅然とした態度で接することも大切にしてきた。	A	どの先生も優しく、愛情深く子どもたちに接していると感じられる。それは毎日幼稚園に行くことを楽しみにしている子どもたちの様子からも感じ取れる。また子どもの意見をきちんと聞くという点も評価できる。
研 向 修 上 ・ の 研 質 究 能 の 力	B	今年度の教職員の資質向上の取り組みとして、「他学年の保育について学ぶ」をテーマに園内研修を進めた。自分の担当する学年だけでなく、その他の学年の保育や子どもたちの様子、発達を知ること、各自がより保育に対する理解を深めることができたように思う。	A	先生達が主体的に行う園内研修や他園の見学、またオンラインによる研修等、積極的に教職員の資質向上に努める姿勢が評価できる。今後もこのような取り組みを継続して欲しい。

保 護 者 対 応	A	園であった出来事や子供の成長している点などを 中心に家庭と連携を図るよう努力をしてきた。ま た電話連絡だけでなく、連絡帳や月に一度保護者 に渡すエピソードノート、アプリを利用した写真 付きの園だより等、保護者の方に伝わる努力を今 年度も行ってきた。	A	年度末のアンケート結果からも分か るように、多くの保護者が園に対し て評価している様子が見られる。昨 今は子供を取り巻く状況の変化から 保護者の悩みも多岐にわたるため、 きめ細かい連携を継続して欲しい。
地 域 と の 関 わ り	B	地域の方に協力していただき、お茶摘み体験やい ちご狩り、マグロの食べ比べ体験やサッカー体験 など、様々な活動を通して子どもたちが地域の魅 力に気づき、また積極的に関わりを持てるよう保 育活動を行ってきた。こうした地域との関わりは これからも大切にしていきたい。	B	地域の環境を生かした活動は、子ど もたちも楽しむ様子が見られ、とて も良いことだと感じる。今後も幅広 く地域の方々との関わりを大切に し、地域から愛される園を目指して 欲しい。

A：十分達成されている、B：達成されている、C：取り組まれているが成果が十分でない、D：取組が不十分である。

【次年度に向けて取り組む課題】

今年度は園内研修等を通して、他学年の保育を知り、各年齢別の発達段階、またそれに応じた配慮等について教職員同士互いに共有することができた。来年度については子どもが自ら動き出すような「環境設定」について改めて見直し、重点目標として全教職員で考えていきたい。